

新かながわランドデザイン評価報告書
数値目標の達成状況及び評価一覧
2024年度

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度		
		構成施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率(%)			
1	子ども・若者	A	結婚支援に取り組む市町村数(総数)	市町村	13	14	120.0	概ね順調に進んでいます。 【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は88.2%であり、目標に対し概ね順調に進んでいます。 【総合評価】 ・子育てしやすい環境づくりの推進、保護者の目線に立った子育て支援情報の発信といった主要事業の取組が概ね予定どおり進捗していることなどから、プロジェクトの一次評価として「概ね順調に進んでいます」としました。	概ね順調に進んでいます。 【評価のポイント】 待機児童問題については、過去から継続して取り組んでいるにも関わらず、未だ解消に至っていないため、今後の動向を注視する必要があります。一方、子育てしやすい環境づくりの推進や、保護者の目線に立った子育て支援情報の発信といった取組が予定どおり進捗していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。 【今後の課題と対応の方向性】 ・待機児童問題については、より一層の取組を進めていく必要があります。 ・養成した医療的ケア児等コーディネーターによる支援体制の構築について、定量的に把握し分析する必要があります。 ・養成した意見表明等支援員が、児童養護施設等の子どもたちからどれだけ意見聴取を行えたか定量的に把握した上で、聴取した意見内容を分析する必要があります。 ・特定の分野に偏らず、幅広く子どもの意見を聞くことが必要ですが、そのための「場所」とそこで関わる大人たちとの信頼関係を構築することが重要です。そのため、子どもの居場所に関する取組がどの程度展開されているか、定量的に把握する必要があります。	
		A	宿泊型産後ケアを利用できる市町村数(総数)	市町村	17	22	200.0			
		A	保育所等利用待機児童数	人	0	188	15.3			見込値(令和7年6月把握予定)
		A	子育て世帯のニーズに対応した子育て支援情報を発信する「かながわ子育てパーソナルサポート」の登録者数(総数)	人	50,000	55,260	110.5			
		A	「かながわ子育て応援パスポート」の協力施設数(総数)	施設	3,797	3,915	336.0			
		B	「かながわヤングケアラー等相談LINE」の相談件数	件	400	363	90.7			
		B	里親等委託率	%	24					未把握(令和7年7月把握予定)
		B	医療的ケア児等コーディネーター養成研修の修了者数(累計)	人	84	84	100.0			
B	子どもの意見をきくための意見表明等支援員の登録者数(総数)	人	10	15	150.0					

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度		
		構成 施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率 (%)			
2	教育	A	インターンシップ体験生徒数(県立高校)	人	4,000	5,357	133.9	見込値(令和7年11月把握予定)	<p>順調に進んでいます。</p> <p>【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は97.5%であり、目標に対し順調に進んでいます。</p> <p>【総合評価】 ・各指標が現況値から上昇傾向にあることも踏まえ、プロジェクトの一次評価として「順調に進んでいます」としました。</p>	<p>順調に進んでいます。</p> <p>【評価のポイント】 キャリア教育やグローバル人材の育成に向けた取組が予定どおり進捗していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「順調に進んでいる」と評価します。</p> <p>【今後の課題と対応の方向性】 ・北欧諸国の一部の自治体では、近年デジタルから紙の教科書へ回帰する動きもあるため、ICTのメリット・デメリットを分析した上で、子どもたちにとって最適な学習環境について検討していく必要があります。 ・家庭の事情でフリースクール等の学びの機会を選択できない子どもがいる現状を把握し、子どもたちが置かれている状況に関わらず、多様な学びを選択できる支援を引き続き実施していく必要があります。 ・教員の働き方改革の推進に向けては、単に教員全体の時間外在校等時間を減らすことに捉われることなく、時間外在校等時間が減ったことによって、教育現場での働き方にどのような影響が出ているのかなども確認していく必要があります。</p>
		A	CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(県立高校3年生)	%	55	55.3	100.5	見込値(令和7年6月把握予定)		
		A	「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うことが勉強の役に立つ」と思う割合(公立小・中学校)	%	95		—	把握不可		
		A	「人が困っているときは、進んで助けています」と思う児童の割合(公立小学校)・生徒の割合(公立中学校) 小学校	%	92	92.5	100.5			
		A	「人が困っているときは、進んで助けています」と思う児童の割合(公立小学校)・生徒の割合(公立中学校) 中学校	%	88	89.6	101.8			
		A	「中学生の時よりも人を思う気持ちが身についた」と思う生徒の割合(県立高校)	%	89	89.6	100.6			
		B	「かながわ子どもサポートドック」のしくみにより児童・生徒が専門的な支援につながった割合	%	75	88.6	118.1			
		B	教員採用候補者選考試験の応募倍率	倍	3.6	3.4	94.4			
		B	「仕事にやりがいがある」と感じている教員の割合(県立学校)	%	80	86	107.5			
B	新まなびや計画第3期における老朽化対策(計画修繕)の実施割合(県立学校)(計画期間中の累計)	%	25	20.9	83.6					

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度		
		構成 施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率 (%)			
3	未病・健康長寿	A	地域の高齢者が気軽に集い、一緒に活動内容を企画し、「生きがいづくり」「仲間づくり」をする「住民主体の通いの場」への参加者数	人	101,500				<p>概ね順調に進んでいます。</p> <p>【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は87.3%であり、目標に対し概ね順調に進んでいます。</p> <p>【総合評価】 ・KPIについて、一部未把握のものもありますが、未病改善への取組など主な事業の取組が概ね予定どおり進捗していることや、関連する統計データがコロナ禍以降改善傾向に向かっていることから、プロジェクトの一次評価として「概ね順調に進んでいます」としました。</p> <p>【評価のポイント】 「「かながわ治療と仕事の両立推進企業」認定企業数」や「心血管疾患リハビリテーション実施件数」などが目標に達していないが、関連する統計データの「がん検診受診率」が増加傾向にあり、がん対策の推進が図られていることや「チームオレンジ」の設置数が増加し、認知症とともに生きる社会づくりといった取組が予定どおり進捗していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <p>【今後の課題と対応の方向性】 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、医師・看護師だけでなく訪問介護員(ホームヘルパー)の不足など、県内の地域ごとの課題に応じて対応する必要があります。 ・自身の希望する医療・介護を受けるため、県民一人ひとりが将来の医療やケアについて、現役世代のうちから主体的に考える環境を整備する必要があります。</p>	概ね順調に進んでいます。
		A	健康経営に取り組む企業数(総数)	社	2,700			未把握(令和7年6月上旬把握予定)		
		A	未病指標利用者数(累計)	人	500,000			未把握(令和7年6月上旬把握予定)		
		B	「かながわ治療と仕事の両立推進企業」認定企業数(累計)	社	280	245	59.3			
		B	心血管疾患リハビリテーションの実施件数	件	647,900	571,776	88.2	見込値(令和8年9月把握予定)		
		B	特定行為研修修了者の就業者数(総数)【暦年】	人	490	543	125.9	見込値(令和7年10月頃把握予定)		
		C	看護職員5人以上の訪問看護ステーション数(総数)	箇所	314	317	108.5	見込値(令和7年10月頃把握予定)		
		C	地域支え合いを推進する「生活支援コーディネーター」研修受講者数	人	455	348	76.4			
		C	認知症本人・家族と支援者をつなぐ「チームオレンジ」の設置数(総数)	箇所	147	153	110.7			

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度		
		構成 施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率 (%)			
4	文化・スポーツ	A	共生共創事業の参加者(出演者、観覧者等)満足度	%	80	90.2	112.7	概ね順調に進んでいます。 【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は87.1%であり、目標に対し概ね順調に進んでいます。 【総合評価】 ・スポーツの実施率にかかわる指標がいずれも2024年実績値が現況値を下回っていますが、主な事業の取組は予定どおり進捗していることから、プロジェクトの一次評価として、「概ね順調に進んでいます」としました。	概ね順調に進んでいます。 【評価のポイント】 スポーツ実施率にかかわる指標は現況値を下回っているが、文化芸術の鑑賞・発表機会の提供に係る取組が予定どおり進捗しているほか、「県民スポーツ月間の参加者数」が増加していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。 【今後の課題と対応の方向性】 ・誰もが生涯にわたって心身ともに豊かな生活を送るためには、文化・スポーツの取組に「未病」の視点も踏まえた取組をより一層推進する必要があります。 ・誰もがスポーツに親しむことのできる社会を目指すうえでは、年代別にスポーツの実施状況を把握し、引き続き、世代に応じた取組を実施していく必要があります。	
		A	神奈川文化プログラム認証件数	件	620	559	90.1			
		A	「マグカル・ドット・ネット」のページビュー数	PV	485,600	554,612	114.2			
		A	県立文化施設、県立社会教育施設の利用者満足度	%	96.5	96.8	100.3			
		B	県民スポーツ月間の参加者数	人	225,000	229,611	102.0			
		B	県内総合型地域スポーツクラブの会員数(総数)	人	28,000	26,982	19.7			
		B	神奈川県障害者スポーツサポーター養成数(累計)	人	783	785	101.2			

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度		
		構成 施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率 (%)			
5	観光・地域活性化	A	観光客満足度(観光客が「大いに満足した」と評価した割合)	%	80			未把握(令和7年12月下旬把握予定)	概ね順調に進んでいます。 【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は98.4%であり、目標に対し順調に進んでいます。 【総合評価】 ・延べ宿泊者数や移住・定住関連のウェブサイトのページビュー数など、主な事業の取組が予定どおり進捗しているものの、本県においても明らかな人口減少局面に入っている中、関連する統計データではコロナ禍で都心から流出していた人口が都心へ回帰するなどの課題が残ることから、プロジェクトの一次評価として評価を1段階下げて「概ね順調に進んでいます」としました。	順調に進んでいます。 【評価のポイント】 移住・定住の促進における施策では、都心回帰の傾向が強まっているなどの課題が残っていることから県による一次評価では「概ね順調に進んでいる」としているものの、「移住・定住関連のウェブサイトのページビュー数」などが目標に達していること、また、観光の振興に向けた取組が予定どおり進捗していることなどから、「順調に進んでいる」と評価します。なお、移住・定住については、今後の都心回帰の傾向を注視する必要があります。 【今後の課題と対応の方向性】 ・三浦半島地域での宿泊客の割合を増やすに当たっては、来訪者の宿泊ニーズに対して宿泊キャパシティが十分か分析する必要があります。 ・箱根エリアなどは宿泊費が高いため、宿泊費を除いた「平均消費単価」を踏まえた各地域の分析を行う必要があります。 ・「観光の振興」では特定地域でのオーバーツーリズムといった課題、「移住・定住の促進」では人口の都心回帰といった課題があるため、いずれの課題についても県と市町村が連携した取組を引き続き推進していく必要があります。
		A	延べ宿泊者数【暦年】	万人	2,430	2,530	104.1	速報値(令和7年6月末把握予定)		
		A	海外向けSNSの総フォロワー数(総数)	人	242,000	285,214	286.1			
		B	三浦半島地域(鎌倉市を除く)の入込観光客数【暦年】	万人	1,483			未把握(令和7年8月把握予定)		
		B	県西地域の入込観光客数【暦年】	万人	3,451			未把握(令和7年8月把握予定)		
		B	me-byoエキスパラザへの来場者数	人	57,000	52,714	92.4			
		B	水源地域の入込観光客数【暦年】	万人	900			未把握(令和7年8月把握予定)		
		C	移住・定住関連のウェブサイトのページビュー数(累計)	回	400,000	465,897	132.9			
		C	県や市町村の相談等の移住施策を経由して移住した人数	人	227			未把握(令和7年6月把握予定)		
C	かながわコミュニティ再生・活性化推進会議に参加する市町村の満足度	%	82	85	103.6					

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度		
		構成 施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率 (%)			
6	経済・労働	A	企業立地支援件数(計画期間中の累計)	件	50	51	102.0		<p>順調に進んでいます。</p> <p>【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は98.2%であり、目標に対し順調に進んでいます。</p> <p>【総合評価】 ・「さがみロボット産業特区」の取組、県外・国外からの企業誘致といった主な事業が予定どおり進捗していること、指標や関連する統計データの「工場立地件数」や「新設法人数」などが増加傾向にあることから、プロジェクトの一次評価として「順調に進んでいます」としました。</p>	<p>順調に進んでいます。</p> <p>【評価のポイント】 「さがみロボット産業特区」の取組や県外・国外からの企業誘致といった取組が予定どおり進捗していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「順調に進んでいる」と評価します。</p> <p>【今後の課題と対応の方向性】 ・県外・国外からの企業誘致や県内企業の投資の促進に引き続き取り組んでいく必要があります。 ・生産年齢人口の減少による労働力不足は今後も深刻化していくため、引き続き、企業のデジタル化などの生産性向上や多様な人材の確保に向けた支援に取り組んでいく必要があります。</p>
		A	未病産業関連商品の事業化件数(累計)	件	200			未把握(令和7年6月把握予定)		
		A	生活支援ロボットに関する特区の取組に参加する県内中小企業件数(累計)	社	55	98	178.1			
		B	DXに取り組んでいる中小企業の割合	%	80	72	90.0			
		B	経営状況が下降する前にその兆しに気づき、早期に必要な対策を講じた企業の割合(★60)	%	81			未把握(令和9年度把握予定)		
		C	働き方改革に関連するセミナーへの参加者数	人	175	385	220.0			
		C	県就業支援施設でキャリアカウンセリングを利用した者の就職等進路決定率(かながわ若者就職支援センター及びシニア・ジョブスタイル・かながわ)	%	50	49.6	99.2			
		C	障がい者雇用の理解促進に向けた研修等への参加者数	人	770	844	109.6			
C	県立総合職業技術校及び県立産業技術短期大学のデジタル関連科就職率	%	94.0			未把握(令和7年7月把握予定)				

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度		
		構成 施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率 (%)			
7	農林水産	A	農林水産業への新規就業者数	人	164	158	96.3	見込値(令和7年7月把握予定)	<p>順調に進んでいます。</p> <p>【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は99.0%であり、目標に対し順調に進んでいます。</p> <p>【総合評価】 ・農地集積に向けた農業基盤整備など主な取組が順調に進んでいることから、プロジェクトの一次評価として「順調に進んでいる」と評価しました。</p>	<p>順調に進んでいます。</p> <p>【評価のポイント】 「スマート農業技術の導入経営体数」や、農地集積といった生産性を高める取組が予定どおり進捗していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「順調に進んでいる」と評価します。</p> <p>【今後の課題と対応の方向性】 ・農業の担い手の育成・確保に当たっては、新規就業者数だけでなく、新規就業者が定着しているか、長期的な視点でデータを把握する必要があります。また、新規就業者が定着するための十分なサポートも検討する必要があります。 ・気候変動等により農業所得が減少傾向にあるため、気候変動の影響を受けにくい品種や生産方法、AIによる生育予測といった生産の効率化に対する支援について検討する必要があります。</p>
A	スマート農業技術の導入経営体数(累計)	戸	358	358	100.0	見込値(令和7年7月把握予定)				
A	意欲ある担い手への農地集積率	%	25.1	25.5	101.5	見込値(令和7年7月把握予定)				
A	農業生産基盤の整備と一体となった農地集積率	%	45	49	108.8	見込値(令和7年7月把握予定)				
B	かながわブランドの認知度	%	74	71.7	96.8					
B	特定家畜伝染病の発生件数	件	0	0	100.0					
B	県民が里地里山の保全活動等に参加する人数	人	7,600	7,960	104.7	見込値(令和7年7月把握予定)				

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度		
		構成 施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率 (%)			
8	脱炭素・ 環境	A	新築一戸建住宅に占めるZEHの割合	%	21			未把握(令和7年12月把握予定)	概ね順調に進んでいます。 【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は98.5%であり、目標に対し順調に進んでいます。 【総合評価】 ・2013年度と比較して、指標である温室効果ガス全体の排出量は、省エネルギー化が進んだことや利用する電力の二酸化炭素排出係数の改善などにより減少してきていますが、このままの削減ペースでは、「2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比で50%削減」することは困難なことから、プロジェクトの一次評価として評価を1段階下げて「概ね順調に進んでいます」としました。	概ね順調に進んでいます。 【評価のポイント】 県内の温室効果ガスの排出量は減少傾向にありますが、このままの削減ペースでは2030年度の目標達成は困難であり、今後の動向を注視する必要があります。一方、「新車乗用車販売数に占める電動車の割合」が増加傾向で人流・物流の脱炭素化の取組や、県有施設の再生可能エネルギーの導入・利用など県庁による率先した取組が予定どおり進捗していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。 【今後の課題と対応の方向性】 ・多様な主体による取組を推進するに当たっては、県内企業の取組を後押しするような支援策や個人の意識に働きかける取組を一層推進していく必要があります。 ・県では次世代太陽電池(ペロブスカイト太陽電池)等の革新技術の早期社会実装に向けた取組を推進しているが、具体的な施策が見えないので、県の取組を強く発信するなど、効果的な導入推進策を検討していく必要があります。 ・新型コロナウイルス感染症が収束し経済活動が活発化している中、CO2の排出量が増加に転じる懸念があるため、注意する必要があります。 ・国では2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標を掲げているため、県でも自然環境や生物多様性の保全という観点からも地球温暖化対策を進めていく必要があります。
		A	脱炭素を意識した取組を行っている人の割合	%	29	27.6	95.1			
		A	新車乗用車販売数に占める電動車※1の割合※2【暦年】 ※1 EV(電気自動車)、PHV(プラグインハイブリッド自動車)、HV(ハイブリッド自動車)、FCV(燃料電池自動車) ※2 軽自動車は含まない。	%	62	61.5	99.1	見込値(令和7年7月把握予定)		
		A	再生可能エネルギーの導入量(総数)	万kW	194			未把握(令和8年4月把握予定)		
		A	プラスチックごみの有効利用率(一般廃棄物)	%	98.6			未把握(令和7年7月把握予定)		
		B	県有施設への太陽光発電の導入率(設置可能な施設のみ)	%	32			未把握(令和7年11月把握予定)		
		B	県有施設での電力利用における再生可能エネルギーへの切り替え率	%	51	52.6	103.1	見込値(令和7年9月把握予定)		
		B	公用車に占める電動車の割合(代替可能な車両がない場合を除く)	%	30	30.5	101.6			

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度		
		構成 施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率 (%)			
9	生活困窮	A	県のポータルサイトに登録している子ども食堂等の数(総数)	箇所	264	366	331.8	<p>概ね順調に進んでいます。</p> <p>【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は96.7%であり、目標に対し順調に進んでいます。</p> <p>【総合評価】 ・子ども・若者の居場所の整備、困難な問題を抱えた女性への支援といった主な事業の取組が予定通り進捗していることや関連する統計データが望ましい方向に進捗している一方、指標の動向は低下していることから、プロジェクトの一次評価として評価を1段階下げて「概ね順調に進んでいます」としました。</p>	<p>概ね順調に進んでいます。</p> <p>【評価のポイント】 「生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てる社会だ」と思う人の割合などの指標が悪化しているが、子ども・若者の居場所や見守り拠点の整備、ひとり親家庭や困難な問題を抱えた女性等への支援体制の整備といった取組が予定どおり進捗していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <p>【今後の課題と対応の方向性】 ・子ども食堂等の取組を支援するだけでなく、子どもたちをみんなで見守る地域づくりに向けた取組も進めていく必要があります。 ・子ども・若者が抱える困難に気づき、寄り添った支援につなげるためには、SNS等を利用できない子どもへのアプローチについても検討していく必要があります。</p>	
A	ケアリーバー相談窓口利用者満足度	%	86	86	100.0					
B	「かながわひとり親家庭相談LINE」の友だち登録者数(総数)	人	5,600	6,172	155.2					
B	「神奈川県ひとり親養育費確保支援事業補助金」の申請受付件数	件	40	55	137.5					
B	DV被害者相談窓口を知っている人の割合	%	86	79.2	92.0					
C	「かながわ子ども・若者総合相談LINE」及び「かながわひきこもり相談LINE」の友だち登録者数(総数)	人	12,000	12,273	106.7					
C	生活困りごとサポートサイト「さばなびかながわ」トップページのページビュー数	PV	74,000	99,356	134.2					
C	生活困窮者自立相談支援の新規相談件数に対する新規支援プラン作成数の割合	%	45	37	82.2					

No.	プロジェクト名	2024年度							2024年度	
		構成 施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率 (%)			
10	共生社会	A	「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度	%	43	29.1	67.6		<p>やや遅れています。</p> <p>【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は87.5%であり、目標に対し概ね順調に進んでいます。</p> <p>【総合評価】 ・指標の動向が全体的に悪化していることに加え、「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度や地域移行者数等の一部のKPIに遅れが出ていることから、プロジェクトの一次評価として評価を1段階下げて「やや遅れています」としました。</p>	<p>やや遅れています。</p> <p>【評価のポイント】 指標の動向が全体的に悪化していることに加え、「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念の普及啓発や障がい児・者が望むくらしの実現に向けた取組に遅れが出ていることなどから、県の一次評価は妥当であり、「やや遅れている」と評価します。</p> <p>【今後の課題と対応の方向性】 ・「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度や障がい者施設入所者の地域移行者数が依然として十分でないため、誰もがその人らしくくらすことのできる社会の実現に向けた取組をより一層推進する必要があります。 ・多文化共生の推進に当たっては、県内外国人数だけでなく、外国人の世帯数や家族構成のほか、外国籍県民のコミュニティの状況等も把握する必要があります。 ・多文化理解の推進のためには、外国籍県民が日本の社会と文化を理解するとともに、日本人が外国籍県民を通じて外国の文化を理解するという双方向の理解が必要です。</p>
		A	障がい者施設入所者の地域生活移行者数	人	108	61	56.4	見込値(令和7年8月把握予定)		
		A	障害福祉サービス報酬の「処遇改善加算」の届出をする事業所・施設の割合	%	87	87.8	100.9			
		A	福祉サービスを利用するための「サービス等利用計画」の作成を「相談支援専門員」に依頼している人数<障がい児・者>	人	60,681	54,691	90.1	見込値(令和7年8月把握予定)		
		A	意思決定支援の研修受講者数(累計)	人	3,320	3,100	83.1			
		B	多文化共生イベントの参加者の満足度	%	88.5	87.6	98.9			
		B	多言語支援センターかながわ対応件数	件	22,000			未把握(令和7年10月把握予定)		
		B	「かながわ国際ファンクラブ」会員数(総数)	人	9,800	11,149	249.7			
		C	民間事業所の女性管理職(課長相当職以上)の割合	%	10.8	9.9	91.6			
		C	25～44歳の女性の就業率【暦年】	%	79	80.1	101.3			

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度	
		構成 施策	数値目標項目	数値目標			備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値			
11	くらしの 安心	A	関係機関・団体等と連携した大規模な防犯キャンペーンの参加人数	人	5,500	5,500	100.0	概ね順調に進んでいます。 【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は84.7%であり、目標に対し概ね順調に進んでいます。 【総合評価】 ・犯罪・事故防止、消費者トラブル対策などの主な事業の取組が予定どおり進捗していることから、プロジェクトの一次評価として「概ね順調に進んでいます」としました。	概ね順調に進んでいます。 【評価のポイント】 安心してらせる神奈川を目指す中、「自主防犯活動団体の登録者数」などが目標に達していないが、犯罪被害者等への支援や交通事故防止対策、消費者トラブルの未然防止といった取組が予定どおり進捗していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。 【今後の課題と対応の方向性】 ・自主防犯活動団体の担い手不足については、コミュニティ活動の衰退といった課題も踏まえ、今後の取組を検討していく必要があります。 ・犯罪などの起きにくい地域社会をつくるためには、犯罪者を生まないための視点での取組を検討する必要があります。また、自主防犯活動や消費者トラブル等は県民生活に身近な問題であるため、市町村との協力体制を一層強化していく必要があります。 ・社会情勢の変化に伴って現れる新たな犯罪を個別に分析し、犯罪の予防、捜査に役立て、県民の安全と安心を守るための取組を強化していく必要があります。 ・高齢者に係る交通事故防止に向けた取組は、高齢者が加害者になり得ることも踏まえて進めていく必要があります。 ・消費生活出前講座については、受講者の行動変容や意識変容などの受講の効果把握していく必要があります。
		A	サイバー空間の脅威に関する広報啓発活動の実施回数【暦年】	回	1,180	981	83.1		
		A	自主防犯活動団体の登録数(総数)	団体	2,435	2,400	-250.0		
		A	犯罪被害者等への経済的支援や日常生活支援に取り組む市町村の数(総数)	市町村	11	16	225.0		
		B	交通事故発生件数【暦年】	件	21,000	20,750	101.2		
		B	交通安全教育の実施回数【暦年】	回	6,550	6,202	94.6		
		C	県の消費生活相談員及び行政職員が行う市町村支援件数	件	200	211	105.5		
		C	相手方の申込みに応じて実施する、若者や高齢者などに対する消費生活出前講座の回数	回	45	47	104.4		

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度		
		構成施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率 (%)			
12	危機管理	A	ビッグレスキュー・かながわ消防などの訓練参加人数	人	2,000	2,041	102.0	<p>順調に進んでいます。</p> <p>【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は98.7%であり、目標に対し順調に進んでいます。</p> <p>【総合評価】 ・大規模災害発生時の医療救護活動に主眼をおいた総合的な訓練や河川及び土砂災害防止施設の整備など主な事業の取組が予定どおり進捗していることから、プロジェクトの一次評価として「順調に進んでいます」としました。</p>	<p>順調に進んでいます。</p> <p>【評価のポイント】 ビッグレスキューの実施などによる災害救助対応力の強化や、緊急一時避難施設の指定促進といった国民保護対策のほか、大規模災害時における応急対応機能の確保といった取組が予定どおり進捗していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「順調に進んでいる」と評価します。</p> <p>【今後の課題と対応の方向性】 ・大規模災害の発生が懸念される中、地震、台風、火災などへの対策に関する満足度が低下しているため、防災・減災対策をより一層推進していく必要があります。 ・各種訓練への参加や防災カードの配布といった取組が、県民の防災意識や防災行動の向上に繋がっているのかを分析し、今後の取組に生かしていく必要があります。 ・県民の防災意識の向上といった「自助」の促進に繋がる効果的な取組を進めていく必要があります。 ・気候変動により近年、激甚化、頻発化する豪雨等で土砂災害が増えているため、土砂災害防止施設等の整備を計画どおりに進めていく必要があります。 ・防災・減災に向けた市町村との連携した取組を強化していく必要があります。</p>	
		A	かながわ版ディザスターシティを使用した訓練への消防団員及び自主防災組織の延べ参加人数	人	3,800	5,049	132.8			
		A	国民保護避難施設の指定数(総数)	施設	1,855	1,919	306.4			見込値(令和7年8月把握予定)
		B	遊水地や流路のボトルネック等の整備箇所数(計画期間中の累計)	箇所	1	1	100.0			
		B	土砂災害防止施設の整備箇所数	箇所	23	21	91.3			
		B	道路の防災対策(橋りょうの耐震補強・土砂崩落対策)の整備箇所数(計画期間中の累計)	箇所	14	14	100.0			
		C	浸水想定区域にある医療機関のうち対策を講じている病院の割合	%	70					未把握(令和7年10月把握予定)
		C	医療従事者等に向けた県の感染症対応研修の受講者数(計画期間中の累計)	人	80	85	106.2			

No.	プロジェクト名	2024年度						2024年度		
		構成施策	数値目標項目	数値目標				備考 (把握予定時期)	県の一次評価	総合計画審議会による二次評価
				単位	目標値	実績値	達成率 (%)			
13	都市基盤	A	自動車専用道路などの供用箇所数(計画期間中の累計)	箇所	1	0	0.0	<p>概ね順調に進んでいます。</p> <p>【KPI】 ・プロジェクトを構成するKPIの平均達成率は83.3%であり、目標に対し概ね順調に進んでいます。</p> <p>【総合評価】 ・鉄道駅におけるホームドアの設置や都市公園におけるインクルーシブ遊具の導入など、主な事業の取組が予定どおり進捗していることや、県内道路における主要渋滞箇所数が減少傾向にあることに加え、指標の動向が基準年度より改善していることから、プロジェクトの一次評価として目標に対し「概ね順調に進んでいます」としました。</p>	<p>概ね順調に進んでいます。</p> <p>【評価のポイント】 「自動車専用道路などの供用箇所数」が目標に達していないが、指標の動向は改善傾向にあり、また、鉄道駅におけるホームドアの設置や、県営住宅の建替えといった誰もが安心してらせる住宅の確保の取組が予定どおり進捗していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「概ね順調に進んでいる」と評価します。</p> <p>【今後の課題と対応の方向性】 ・昨今の建設費の高騰などにより、工事の進捗が遅れることがないよう、整備を計画どおりに進めていく必要があります。 ・県が掲げる「魅力あふれるまちづくり」の進捗を計るための方法等を検討し、その成果を県民にわかりやすく伝えていく必要があります。 ・都市基盤の整備は、脱炭素や環境等の課題と密接に関わるため、都市基盤の整備を通じて、課題を解決するための具体策等について検討していく必要があります。</p>	
A	道路をより使いやすくする施設(スマートインターチェンジ、道の駅)の供用箇所数(計画期間中の累計)	箇所	0	0	—					
A	1日当たりの平均利用者数10万人以上の鉄道駅におけるホームドアの設置駅数(累計)	駅	28	28	100.0					
B	新規に事業化される市街地再開発事業地区数(計画期間中の累計)	地区	2	2	100.0					
B	インクルーシブな遊具を導入した県立都市公園数(計画期間中の累計)	公園	1	1	100.0					
B	県営住宅の建替え工事に着手した団地数(累計)	団地	11	12	133.3					
B	道路施設(橋りょう、トンネル・洞門)の長寿命化計画に沿った修繕箇所数(計画期間中の累計)	箇所	33	36	109.0					